

第3回学校運営協議会の報告

- 1 日時 令和5年2月7日（火）17:30～18:30
- 2 会場 上越市立高士小学校 ランチルーム
- 3 参加者 委員11名のうち、3名欠席、8名参加

4 内容

（1）開会のあいさつ：CS 会長・校長

- ・短時間で済ませながらも、来年度に生かせる協議にしたい。役員として協力できることはしていきたい。
- ・コロナとともに学校生活を送っている現状であるが、先日豆まき集会を久しぶりに全校で行うことができ、子どもたちの笑顔が見られた。来年度は150周年の年であるため、つながりの多い1年にしていきたい。

（2）協議

①後期学校評価報告と意見交換

②令和5年度の全校稲作体験活動・善兵衛学習を中核とした教育課程について

③卒業式・入学式の対応について

→感染状況に鑑みて来賓の皆様をお招きすることが難しいと判断した。中学校区で協議し、当校では学校運営協議委員の皆様を来賓として呼び出すことにした。

（3）その他 ・拡大学校運営協議会の予定：2月15日（水）

Q 善兵衛学習の岩の原葡萄園における活動の見通しは？

→毎年5回程、お世話になっている。収穫や職場体験など葡萄の生長に合わせて来年度もお願いしたい。

- ・児童数・職員数の少ない中で工夫しながら取り組んでいる様子が見え、高士の子どもはあいさつもよく、いい子どもに育っている。協力していきたい。
- ・子どもの姿を見ていると、稲作や葡萄づくりなど、ものを育てることに喜びを感じていることがうかがえる。思いと活動が、次の年にもつながっている。
- ・高士の子どもはあいさつをすれば、しっかりと返してくれる。素直な子どもたちである。
- ・学校評価において「学校に来るのが楽しい」「授業が分かる」「体育の学習が楽しい」という項目の肯定的な評価が100%という結果は自慢できるものである。職員間や、上越教育大学との協力体制の賜物である。コロナ禍になり、人と人が直接かかわることの大切さを感じている。小学校生活の中で、自分の思いや考えを相手に伝える経験をたくさんさせて欲しい。
- ・学校評価において「学校に毎日来るのが楽しい」という項目に対する肯定的な評価100%は素晴らしい。人と人とのコミュニケーション、face to face の会話は大切であると考えている。小学校でも大事にしてほしい。
- ・園児と小学生との交流をもっとしたいという思いがあるものの、コロナ禍のため制限されていて残念である。保育園では、遊びの中で自分から学んでいける力を育むことができるよう取り組んでいる。幼少の接続がスムーズにいくようにするとともに、幼少の連携がより一層できるようにしたい。
- ・コロナ禍で活動に制限があり、縦割り班での交流活動が少なくなっている現状にあるのが残念である。縦割り班活動は、全校での交流を通して、全体で成長していく活動である。今後も大事にしてほしい。
- ・高士小の卒業生である。自分が2年生の時に葡萄の木を植えたことを記憶している。善兵衛学習が続いていることが嬉しい。前回の会で、メディアとのかかわりについて、親の世代のかかわりが子どもに影響しているのではないかというご意見があった。親としてメディアのかかわり方について、子どもと共に考えていきたい。

5 閉会のあいさつ（CS 副会長） ・ご多様の中、ありがとうございました。